虹の架橋は足利屋・さくらもーるアスクが毎月１日発行する地域新聞です。

虹の架橋

第１９７号
平成24年1月1日発行
企画・編集　松﨑　靖
発行　㈱足利屋洋品店
みどり市大間々町4-1380（〒376-0101）
TEL 0277－73－1212
Fax 0277－70－1066

今月の題字
小畑貞雄さん
（宮城県多賀城市）

東日本大震災で家も車も全て流失。そんな中でも、黙々と避難所のトイレ掃除を毎日続けてきた小畑さんから強さ、優しさ、明るく生きる大切さを学びました。

足利屋でミニ書道展開催

足利屋では、毎年正月に、大間々町の窪塚英子先生の書道教室に通う子供たちの作品展を開催しております。今年も富山市で開催された第４６回北陸書道院展で、北陸書道院賞や特選に選ばれた８点の条幅作品を１月２日から３１日迄、足利屋の休憩コーナーに展示いたします。新しい年のはじまりに、子供たちの力強い書道の作品をごゆっくりご観賞ください。

「たくさんの人たちに見てもらいたい」、という願いを込めて、子どもたちからのメッセージも頂きました。

「元気いっぱい心を込めて書きました。書くのが楽しいえがおをあらわしました」（渡辺陽世・小２）、「作品ができあがったときのまんぞくのえがおをあらわしました」（国原碧東・小２）、「はじけるえがおをあらわしました」（吉田茉由・小２）、「自然災害で大変な日本に『生きる力』を強い思いで書きました」（田上弥茉門・小３）、「九才のパワー全開で力いっぱい元気よく書きました」（藤塚みくる・小４）などなど。

子供たちの作品を見ていると、『とらわれない心、こだわらない心、かたよらない心。広く、広く、もっと広く。これが般若心経の空の心なり』という薬師寺元館長・高田光胤さんのことばを思い出します。

書道を通して、広い心を育てたいという窪塚先生の願いが子供たち伝わっています。足利屋で是非ご覧下さい。

世界一小さな足利屋トイレ美術館

今月の作品《197》

足利屋は、明治中期に足利市出身の松﨑浅吉が旧東村で雑貨商を開いたのがはじまりです。大間々の足利屋は、大正２年に浅吉の息子・友次が本家から独立し、大間々駅前で足袋の製造販売をはじめ、来年は創業百年を迎えます。足利屋では明治時代から「引札」と呼ばれる暦付きの広告を正月に配っていました。この引札は、日露戦争に勝利した直後の明治３９年の正月（馬年）に配った引札です。力強い図柄は、大国ロシアを破った日本の歓喜と共に、足利屋初代・浅吉の未来への自信が伝わってきます。

106年前の足利屋の広告

小耳にはさんだいい話
（文責・靖）《197》

群馬フラワーパークに勤める友人・會所敦さんから、スノードロップという花の写真をいただきました。スノードロップは別名・マツユキソウ（待つ雪草）という純白の花で、雪の積もる頃に花を咲かせ、静かに美しく輝き合うといわれている清楚な花です。

花を愛している同い年の會所さんが少年のようにはにかんだ表情で、スノードロップの話を聞かせくれました。その話をご紹介いたします。

スノードロップ

「昔、花には色がついていなかったそうです。神様が花たちに『好きな色を付けてあげましょう』と言いました。大きなパレットを持った神様は花たちが望む通りに赤や黄色やブルーなどの色を付けてあげました。すべての花たちに色がついたとき、神様のパレットは空っぽになりました。そのとき、『私にも色をつけて下さい』とお願いしたのは、まだ何の色もついていない透明な『雪』でした。神様は雪に、『花たちに頼んで色を分けてもらいなさい』と言いました。雪は花たちのところへ行き、『私にも色を分けてくれませんか』とお願いしました。しかし、誰も色を分けてくれませんでした。雪は悲しくて泣いてしまいました。悲しんでいる雪に、そっと話しかけてきたのが野原の片隅でひっそりと咲いていたスノードロップでした。雪の形をした花は清らかな白い色をしていました。スノードロップは雪に寄り添い、『私の色でよかったら、分けてあげましょう』と言いました。雪は喜んで、清らかな白い色を分けてもらいました。そのときから雪は真っ白な色になったのでした。雪はとても喜んで、スノードロップに、春一番の花を咲かせることを約束しました。」

スノードロップには、もうひとつの伝説があります。「アダムとイブが楽園を追い出されて困っていたときに、天使が降ってきた雪をスノードロップの花に変えて、『必ず春が来る』という希望を与えた」というお話です。スノードロップの花言葉は「希望・慰め」だそうです。

平成２４年の幕開けです。喜びも苦しみも皆で分け合って、良い年にしたいですね。

靖ちゃん日記

12月21日（水）

ついにダイエットの目標を達成。10月30日に74.8キロあった体重を、「年末までに70キロ以下に落とす」と決めて、「16時間断食」を続けてきた。16時間断食とは、夕食後から、翌日の昼食まで、何も食べず、人参ジュースと生姜紅茶だけで過ごすダイエット。慣れると空腹感が快感に変わる。若いうちは、「早寝、早起き、朝ごはん」が大事だが、年をとると、1日2食で十分らしい。

今朝も、トイレで出すものを全部出して、体重計にそーっと乗ってみた。70.0キロだった。保温肌着と股引を脱ぎ、パンツ一丁でもう一度乗った。やったー。69.8キロ。寒さに震えながら、デジカメを持って、体重計に乗り、足元の目盛りを写そうとした。70.0キロに上がっていた。デジカメが200グラムあった。パンツまで脱いでみたが、変らなかった。頼んで撮ってもらった。「バカじゃないの」と笑われた。同い年のムスコが縮み上がって減量に協力していた。

還暦の淑気人生第二幕

還暦とは、干支が一巡することで、昭和２７年（壬辰・みずのえたつ）生まれの私も１月１日に還暦の年を迎えます。還暦は、６０年の歳月を振返り、今後の人生をどう生きるかを考える節目の年でもあります。健康で、家族や友人に恵まれ、お客様のお陰で商売を続けられる有難さに感謝しております。

部屋の壁に、１５年前に作家・神渡良平先生に頂いた『人生はご恩返し、仕事もご恩返し』という書が飾ってあります。この言葉を深く心に刻みたいと思っております。

虹の架橋 ⇑ 検索で、インターネットからでもご覧いただけます。

第１９８号は２月１日（水）発行予定です。

❤やっちゃんの似顔絵提供：ひさかさん